

# 論壇

## 「幸せな老後」と 「持続可能な社会」

茨城県保険医協会 副会長 飯坂 章

1月に公表された高齢者の定義を「75歳以上」に見直すべきだとする日本老年学会と日本老年医学会の提言は、医学的な見地から、65～74歳は十分に社会参加ができる活力と意欲を備えた層と評価されるものの、「生涯現役」を強調しすぎると、高齢者が安心して老後を過ごせる社会保障制度が後退する恐れがあり注視しなければなりません。

オーバー100歳が2020年には10万人を突破し、2030年には30万人に達するとの予想もあり、医療や介護の需要がさらに増加する見込みです。高齢者が増えること

は医療費が増加することにもつながります。「幸せな老後」と「持続可能な社会」のために心身ともに自立し健康的に生活できる健康寿命を延ばすことが必須課題です。

しかし、健康寿命と平均寿命の差がまた大きな問題です。男性で9年、女性では12年となっています(2013年厚労省の報告)。この期間は、誰かの支援や社会的な援助が必要となります。診療所までの通院が困難となってしまった患者様に訪問での歯科診療を提供できるよう、他の医療機関や多職種連携を深めていきたいと思っています。